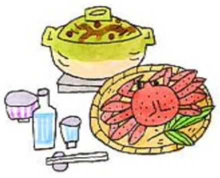
こぼれ話

朝夕の寒さは冬本番並みとなってきた。朝は氷点下ゼロ、またマイナス1～2。となり、車のフロントガラスも氷が張るようになってきた。テレビでは山荘などの雪囲いの様子などが報道されている。農家は「寒詰ホウレン草」等の作業を始め、畜産農家は山から牛舎に連れ戻す作業を始めた。もう冬支度である。

宮古の北方面に畜産・酪農家がいる。夫婦と息子と嫁で山から牛を追ってきた。そして牛舎に入れ始めた。息子は牛の背中をポンポンと叩きながら「さあこれからは家で冬を迎えんだがや」と声掛けながら仕事をこなした。牛舎のやや狭い入り口は立ち止まる牛などで混雑した。息子は「ほ～らほ～ら！」と力づくで中に入れようとした。2頭は何とか入った3頭目がなかなか入らず。嫁が言った。「2頭で止めて」

「なんで?」「ギュウギュウ詰めでしょう！」

わが家の一品



【湯豆腐】

［材料］木綿豆腐2丁、ワカメ、出汁コンブ、削り節、出汁の素、長ネギ、生醤油、みりん、砂糖。

［つくり方］毎日いろんな鍋物を食べたい、そんな季節になりましたね。わが家は週1回か2週に3回は湯豆腐をつくります。たれは少し濃いめにつくります。どこのご家庭でもそうでしょうがワカメも入れて食べます。

①土鍋に数時間前から水、出汁コンブを入れて準備しておきます。豆腐は大きめに切っておきます。長ネギはみじん切りにしておきます。②たれは別の鍋で作ります。これにも出汁コンブ、そして削り節、水で戻したワカメ、出汁の素、生醤油、みりん、砂糖で少し濃いめの味にします。③土鍋に火を入れます。途中で出汁コンブは取ります。豆腐を入れ、浮いたら完成。

（津軽石／Y・N）

深刻な秋サケ

宮古・全県の漁獲量は最悪だった前年の半分以下で推移

暖流系の魚水揚げも視野に

宮古市の昨年度（令和元年）の秋サケ漁獲量はわずかに428㌧で、金額もはじめて10億円台から大きく落ち込み3億7696万円でした。今年も前年同期比で40％台とさらに深刻です。

11月10日現在／尾数も金額もさらに落ち込む

●宮古（宮古＋田老）の尾数は2400尾（前年同期比35・4％）、金額は667万5005円で前年比46・55％です。●県全体で尾数は3万5626尾で前年同期比54・8％、金額は6011万4960円で前年比55・6％です。

なお、はえ縄漁による漁獲量は船越の1尾以外はそもそも魚市場に水揚げされていません。

北海道の漁獲量は前年同期比で103％と「健闘」

11月10日現在の北海道全体での漁獲量は、尾数1538万4620尾で前年比103％、金額は340億3467万円で前年比121％です。

北海道も昨年度は最悪でしたから「それと対比するのもいかがなものか」は魚市場関係者の声です。

アラスカ、ロシアの昨年度の漁獲量は大健闘

2019年度、アラスカの漁獲量は40万㌧で史上8番目の高さ、ロシアは50万㌧で史上6番目と報告されています。

国・県はサケ不漁の原因究明の調査を行っていますが有効な対策は出ておりません。不漁の連続は地域経済と市の財政にも影響を与えています。不漁対策待ちでなく暖流系のアジ、サバ、イワシなどの水揚げ増も視野に、更なる廻来船誘致等の取組みが強く求められます。

読者の文芸欄

短歌　金沢邦臣（田鎖）

●待て！待て！と家に入る吾を止める声ズボンに付きし雑草の種

●激戦とトップニュースで伝わるも開票四日も決まらぬ選挙

自注／もう終わったのでしょうが、私にはおかしな奇妙な選挙がありました。わが国が手本とする民主主義の国家で。

私道整備補助対象に台風１０号による被災した私道等も追加に

私道整備補助金交付要綱を改定

市はこのほど私道等整備事業補助金交付要綱を改正し、平成28年８月の台風10号による被災した私道等の整備事業も対象とする、としました。台風10号時には拡充した補助制度（昨年3月改定）はなかった

４年前の台風10号も甚大な被害をもたらしましたが、当時は拡充した私道整備補助制度はなく、補助上限額も100万円でし　今回・10月の要綱改定は、台風被害が連続し私道等の修復を求める件数が増大し、大型化していることなどが背景と考えられます。しかも昨年10月の台風19号による被災私道等への補助は拡充した制度で対応できましたが、台風10号時との公平性で改善が求められていました。

改めて拡充した補助制度の内容は

【対象と対象事業】

●台風10号被災私道等。●個人、会社等が所有する道路。●赤線など法定外公共物。●私道等の舗装工事、排水路、橋梁の擁壁工事。●その他、私道等の整備に必要と認められる工事、となっています。

【補助金交付額は】

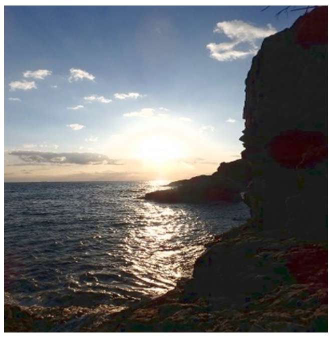
●私道等の整備費用の２分の１。ただし上限額は200万円。●赤線など法定外公共物の整備費用は10分の10、です。

台風10号時に被災した私道等で未修復の箇所も補助申請できます。

つり情報

40㌢のアイナメ情報が舞い込んできた。場所は田老・摂待の三番目の岬の磯場である。摂待集落を過ぎてトンネルを通ったら国道を左に曲がりグルっと道なりに進み、車を置いて歩いて20分のポイントである。宮古の釣り吉が盛岡の仲間に声をかけ平日の17日に。

1本の竿は足元に、もう1本は浮き釣りでタナゴ狙い。エサはイソメと塩サンマ。朝7時半過ぎに盛岡の足元の竿が激しく上下した。一気に合わせる。茶褐色の見事なアイナメである。このポイントでアイナメが連続して2本。地元の彼は目の先10㍍前後の根にエサを投入し普通サイズのアイナメ6本。二人でアイナメ11本だ。

「これからす！」